**國學院大學法学部　「講義計画」の執筆にあたって**

1. 國學院大學法学部ではセメスター制を採用し、1セメスター15回で完結する授業を行い、これを2単位として認定することを原則としております。講義科目「民法・総則」も、1セメスター・2単位の科目として開講されておりますので、ご提出いただく「講義計画」でも、15回分の講義計画を作成してください。また、講義科目「民法・物権A」・「民法・物権B」、「民法・債権総論A」・「民法・債権総論B」及び「民法・債権各論A」・「民法・債権各論B」も、1セメスター・2単位の科目として開講されておりますので、ご提出いただく「講義計画」でも、A・Bそれぞれ15回分（合計30回分）の講義計画を作成してください（原則として、Aは前期開講、Bは後期開講となります）。
2. 「民法・総則」は、1年次配当・2単位の選択科目です。法学部法律学科法律専攻では、民事法分野への入門科目である「民事法入門」（2単位）の1年次前期での履修が義務化されており、これに引き続いて1年次後期に「民法・総則」に臨むことが想定されています。

　「民法・物権A」・「民法・物権B」および「債権・総論A」・「民法・債権各論B」は、2年次配当・各2単位の選択科目です。原則として、「民法・物権A」および「民法・債権総論A」が前期に開講され、「民法・物権B」および「民法・債権総論B」が後期に開講されます。この4科目については、前掲の「民事法入門」および「民法・総則」（さらには後掲の「民法・債権各論A」や「民法・債権各論B」）を履修したうえで臨むことが想定されています（ただし、現時点において、「民事法入門」等の単位取得が前提条件となっているわけではありません）。

「民法・債権各論A」は、1年次配当・2単位の選択科目であり、前掲の「民事法入門」を1年次前期に履修したうえで、1年次後期に臨むことが想定されています（ただし、現時点において、「民事法入門」の単位取得が前提条件となっているわけではありません）。また、「民法・債権各論B」は、2年次配当・2単位の選択科目であり、「民法・債権各論A」を1年次後期に履修したうえで、2年次前期に臨むことが想定されています（ただし、現時点において、「民法・債権各論A」の単位取得が前提条件となっているわけではありません）。

このように、現在のカリキュラムでは、1年次に民事法ないし民法全体の基礎を習得することが期待されているとともに、これを踏まえて、1年次後期から2年次後期にかけて民法の財産法分野を学んでいくことが期待されています。

なお、これらと関連する科目として、「民法・親族」および「民法・相続」が3年次配当・各2単位の選択科目として開講されるほか、「民事訴訟法IA」および「民事訴訟法IB」が2年次配当・各2単位の選択科目として開講され、「民事訴訟法II」、「民事執行・保全法A」・「民事執行・保全法B」および「倒産法A」・「倒産法B」が3年次配当・各2単位の選択科目として開講されています。その他に開講されている科目も含め、科目配置の全体像などについては、本学ホームページ掲載の履修要綱（https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/p6）やカリキュラムリスト＆ツリー（https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/law/curriculum）などをご参照ください（なお、ご参照にあたっては、現在の主要なカリキュラムの運用が開始された平成30年度（2018年度）以降のものをご利用ください）。

1. 「講義計画」を作成していただく上記の各科目は、法律学科内の3専攻（法律専攻、法律専門職専攻及び政治専攻）のうち法律専攻で開講されるものを想定しており、当該科目の主たる履修者も、当該専攻に所属している学生を想定しています。法律専攻では、1学年あたりの定員が400名となっていることなどから、各科目とも比較的大規模な開講形態（履修者数100名～200名前後）となることが予想されます。なお、卒業後の進路として特に法曹三者や公務員等を志望する学生を想定している法律専門職専攻（定員50名）でも、上記の各科目と同様ないし類似の科目が設けられており、これらを担当していただく可能性もありますが、今回の「講義計画」の作成にあたっては、その点について特にご留意いただく必要はありません。

法律学科各専攻の特質や科目展開などについては、前掲サイトのほか、本学ホームページの「3専攻制とコース制」にある「各専攻の特色」および「法学部の学士課程教育3ポリシ－」にある「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシ－）」をご覧ください（https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/law/about）。

* 別紙の**「講義計画」**の末尾には、作成日記入欄および署名欄のほか、捺印箇所がありますので、**ご捺印**の上、ご提出ください。

以上